



コミセン講座

【大人の色鉛筆画くらぶ】

秋からのコミセン講座と題し、9月18日～10月16日(各水曜日の4回シリーズ)スタートしました。

とにかく初めてで「絵心なんて全くないわ!!」と不安を抱えながら受講し始めたメンバーの方々ですが、陽気で気さくな講師のペースに助けられ楽しく2回目を終えています。



1回目には、色の塗り方や形のとらえ方などを教わり、2回目には即実践とばかりに実物(題材)を前にデッサンから色付けまで一気に取り組みました。講師から色選びと注意点などは一人ひとり教えていただくも、途中「目の前にある物をしっかり見て!」と叱咤激励されつつ完成した作品に、皆さん満足感あふれる笑顔で初回の不安は解消されたようでした。

参加者募集

はるにし未来夢フォーラム

とき **11月16日(土) 9:30~12:00**

(受付: 9:00~ お弁当を準備します)

ところ **春江西コミュニティセンター**



コーディネーター

(一社) 坂井市まちづくりセンター

代表理事 和田真幸 氏

地域の子どもたち(春江西小学校5年生)が地域の望ましい未来を考えて自分たちの意見を大人たちの前で発表します。子どもたちの夢を応援し、一緒に地域の未来を考えるこのフォーラムに是非ご参加ください。参加を希望される方は、下の参加申込書にお名前、住所、連絡先を記入して春江西コミュニティセンターに提出してください。 **申込締切 11月8日(金)**

..... きりとり

はるにし未来夢フォーラム 参加申込書

お名前	
住所	
連絡先(電話)	

～地域住民みんなで楽しむまちづくり～

令和6年10月9日発行

ふれあい

第71号

春江西部地区まちづくり協議会 & 春江西コミュニティセンター

ホームページ www2.fctv.ne.jp/~seiko1/

Eメール harunishi-cc@city.fukui-sakai.lg.jp

西部地区 世帯数・人口

世帯数 2,241世帯

人口 5,922人

男: 2,846人 女: 3,076人

(令和6年9月1日現在)



先進地で高齢者の居場所作りについて学ぶ

10月1日(火)、富山県高岡市の「まきのお気楽サロン・よらんまいけ」を訪問しました。このサロンは、要支援者や一人暮らしの高齢者を対象とし、体操やレクリエーションでフレイル※1予防に取り組んでいます。スタッフは15名おり、毎回趣向を凝らした活動をされています。

春江西コミセンで行っている「みんなのほっとカフェ※2」のスタッフは、運営についてたくさんのことを学んだようで、「私たちがこれできるよね!」と、今後の活動のヒントを得たようです。今後の「みんなのほっとカフェ」に期待したいです!

※1 加齢により、心身が老い衰えた状態

※2 毎週水曜日 13:30-15:00 コミセンカフェスペースで開催 参加費は無料

内容は、健康体操、絵手紙、脳トレなど

避難所開設運営訓練

日時 令和6年6月30日(日)

場所 春江西小学校

強い地震が発生したことを想定した避難所の開設及び運営の訓練が実施されました。
訓練の具体的な内容は以下のとおりでした。

① 避難所の安全確認訓練

避難施設の安全を確認するため、チェックシートを用いて建物外観、屋内の状況の点検を行いました。
(当日は雨が降っていたため、外観の確認は省略されました。)



市の担当から説明を聞く参加者

② 避難所開設準備訓練

避難者の受付をおこなうため小学校にある机やイスの準備、また小学校グラウンドにある防災倉庫から簡易テントや段ボールベッドなどの必要機材を所定の場所に配置しました。



防災倉庫から資機材を搬出

③ 資機材、設備等の設置作動訓練

簡易テントや段ボールベッド、簡易トイレ等の組立て訓練、特設公衆電話の設置訓練、LPガス発電機の接続および作動訓練等を行いました。



防災士の指導によりテントを組立

④ 避難者受け入れ誘導訓練

参加者を避難者と運営者に分けて、様々な特性を持つ避難者を想定した検温・受付・誘導の訓練を行いました。



発電機の動作を確認

まさかの時のために万全の備えを！

訓練には、坂井市職員(危機管理対策課および避難所支援員)、まちづくり協議会会員、各区の区長および役員、また指導者として坂井市防災士の会のメンバーなど約60名が参加しました。一般の参加者は慣れない手つきと戸惑いの中ながらも、真剣な面持ちで訓練に取り組んでいました。

避難所の運営は、原則として非難してきた人たちが自主的に行うことが求められます。各地区でも様々な防災訓練が行われていますので、積極的に参加していただき、まさかの時のために万全の備えをお願いいたします。

訓練のふりかえりシートから(抜粋)

(当日訓練に参加された皆さんからの感想・意見です)

1. 訓練を実施してみて、よかった点

- 防災に対する意識が高くなった。…同意見2 / ○ 実際に(訓練を)経験すること、「知ること」が重要。
- 災害時の人の誘導等の難しさが理解できた。 / ○ 避難所開設のポイントが少しわかった。…同意見2
- 現実には段取り通りいかないが、自分が何をすべきかを理解できた。
- 自分たちの地区の避難所の実態が分かってよかった。
- 防災用品、用具がどこにあるのか・何があるのかが実際に確認出来てよかった。
- 簡易ベッドや簡易トイレなど実際に手にふれて組立て方もわかった。…同意見8
- 簡易トイレの一連の後始末(廃棄まで)が理解できた。
- 設備等設置訓練はスムーズだった。 / ○ レイアウト訓練は大変よかった。
- 色々なことを考えながら実施する必要があることがわかった。
- ある程度の予備知識だけで訓練を実施したが、バタバタ感があり逆によかった。
- 自主的に役割を担う(動く)人がいてよかった。

2. 訓練を実施してみて、改善すべき点

- 資料を見ても防災倉庫の場所が分からない(わかりづらい)。
- 受付は多い方が混雑しなくてよい。(可能ならば10か所近く)
- 人の流れがわかるような表示が必要。 / ○ 1人1人の役割を明確にする。(受付の役割をわかりやすく。)
- ろうあ者の受付は時筆談することになるが、予め質問事項を準備しておくともスムーズな受付が可能。
- 段取りが悪く改善点が多い。分かっている災害情報をもとに訓練すべき。ステップアップした訓練が必要。
- テント等商品の表示は大きい文字にするべき。 / ○ 電話の設置場所を目立つように表示するべき。
- 訓練を難しくせず単純にして、いざという時に迅速に行えるとよい。
- 発災時に、安静者が2階に上がるのは困難。またイスに座るより横になれるようマットがあるとよい。
- 指示者がいない / ○ 各班のリーダーが明確に指示を出す方が動きやすい。
- 受付で認知症の方の対応が難しい。 / ○ 認知症の方、車イスの方などの事前講習があるとよい。
- 何をすべきか、装備はどこにあるのか、何する装備なのか分かりやすい説明書が必要。
- 訓練の流れがスムーズにできるようもう少し工夫が必要。待ち時間が長い。
- 説明時のマイクが聞き取りにくかった。拡声器はまだハッキリ聞こえた。…同意見6
- (訓練を)市が防災士に任せている感じがした。
- 被災地に支援に行っている行政職員が体験をもとに指導してほしい。
- 高齢者より若い人に、または一般住民に声をかけて訓練してほしい。
- 受付で避難者を振り分ける基準をもっと明確にする。

3. その他、訓練について感想やご意見等

- 1回の参加では難しい。年2回、毎年行うなど…同意見3 / ○ より多くの人に体験してもらいたい。
- 「自分たちの避難場所」の意識を高めていくべき。
- 避難された方の中に福祉関係者・医療関係者がいないか募るようにしてほしい。
- 参加者に「やらされている感」があるのは仕方ないが、自分のこととしてとらえる必要があると感じた。
- 自分の担当以外の状況がわからない。事後に全体の振り返りがあるとよい。
- 臨機応変に対応することが肝要。

